

大阪市立豊里小学校 平成 28 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1. 学校運営の中期目標

【視点：学力の向上】

○平成 28 年度末の学校アンケートにおける「国語の授業はわかりやすい」の項目について、
「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合の **80%以上** を維持する。

(カリキュラム改革関連)

【視点：道徳心・社会性の向上】

○平成 28 年度末の学校アンケートにおける「しっかりとあいさつや返事をしている」の項目について、
「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合の **80%以上** を維持する。

(カリキュラム改革関連)

○平成 28 年度末の学校アンケートにおける「学校のきまりを守っている」の項目について、
「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合の **80%以上** を維持する。

(カリキュラム改革関連)

○平成 28 年度末の学校アンケートにおける「しっかりと清掃活動をしている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合の **80%以上** を維持する。

(カリキュラム改革関連)

●平成 28 年度末の児童アンケートにおける「自分には良いところがある」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を **80%以上** にする。

(カリキュラム改革関連)

【視点：健康・体力の保持増進】

○平成 28 年度末の学校アンケートにおける「体育の時間や休み時間にしっかりと身体を動かしている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合の **80%以上** を維持する。

(カリキュラム改革関連)

○平成 28 年度末の学校アンケートにおける「給食を残さずに食べている」の項目について、
「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合の **80%以上** を維持する。

(カリキュラム改革関連)

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点：学力の向上】

○平成 28 年度末の学校アンケートにおける「国語の授業はわかりやすい」の項目について、
「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合の **80%以上** を維持する。

(カリキュラム改革関連)

【視点：道徳心・社会性の向上】

○平成 28 年度末の学校アンケートにおける「しっかりとあいさつや返事をしている」の項目について、
「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合の **80%以上** を維持する。

(カリキュラム改革関連)

○平成 28 年度末の学校アンケートにおける「学校のきまりを守っている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合の **80%以上** を維持する。

(カリキュラム改革関連)

○平成 28 年度末の学校アンケートにおける「しっかりと清掃活動をしている」の項目について、
「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合の **80%以上** を維持する。

(カリキュラム改革関連)

●平成 28 年度末の児童アンケートにおける「自分には良いところがある」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を **80%以上** にする。

(カリキュラム改革関連)

【視点：健康・体力の保持増進】

○平成 28 年度末の学校アンケートにおける「体育の時間や休み時間にしっかりと身体を動かしている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合の **80%以上** を維持する。

(カリキュラム改革関連)

○平成 28 年度末の学校アンケートにおける「給食を残さずに食べている」の項目について、
「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合の **80%以上** を維持する。

(カリキュラム改革関連)

3. 本年度の自己評価結果の総括

今年度も、以下のように設定した８項目全てにおいて年度目標を達成することができた。

それにともない運営の計画の「中期目標」も全項目達成し、目指す学校運営が４年間順調に遂行できたと言える。しかし、学年によって回答に差がみられる設問もあり、児童の発達段階にあわせた指導対応の必要性を痛感する。また、まだまだ教職員リードの取り組みであり、児童の自主的・自発的な取り組みに定着させる更なる啓発が必要である。

さらに、本校児童の現状をしっかりと把握したうえで、改訂された「大阪市教育振興基本計画」にそった次年度からの「教育目標」の設定、ならびに重点的に「取り組むべき施策」を早急に模索しなければならない。

《年度目標Ⅰ》

- １．「国語の勉強はわかりやすい」 の肯定回答を８０％以上に ⇒ ８３％

《年度目標Ⅱ》

- ２．「しっかりと挨拶や返事をする」 の肯定回答を８０％以上に ⇒ ８５％
３．「学校のきまりを守っている」 の肯定回答を８０％以上に ⇒ ８５％
４．「しっかりと清掃している」 の肯定回答を８０％以上に ⇒ ８９％
５．「自分にはいいところがある」 の肯定回答を８０％以上に ⇒ ８１％

《年度目標Ⅲ》

- ６．「体育の時間や休み時間にしっかりと身体を動かしている」
の肯定回答を８０％以上に ⇒ ８６％
７．「給食を残さずに食べている」 の肯定回答を８０％以上に ⇒ ９０％
８．「しっかりと手洗いをしている」 の肯定回答を８０％以上に ⇒ ８４％

大阪市立豊里小学校 平成28年度 運営に関する計画・最終総括(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標 I	達成状況
【視点：学力の向上】 ○平成28年度末の学校アンケートにおける「国語の授業はわかりやすい」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【区分：国語科の学力向上】 ○「読むこと」に重点を置き、児童が主体的に学習できるよう言語活動を充実させる。 ○図書館の集団貸し出しを利用したり、学校図書館・学級文庫を整備したりし、授業に活用する。		B
指標 ○各学年、年間1回以上の公開授業を行い、討議会を通して授業内容の改善を図る。 ○図書館の集団貸し出しや、学校図書館・学級文庫を授業の並行読書等で活用する機会を設ける。		
取組内容②【区分：基礎的・基本的な学力の定着】 ○習熟度別少人数学習の有効活用や「さんさんタイム」実施による基礎・基本の定着など、これまでの取組みを継続して行う。		B
指標 各学年、クラスの実態に応じた「さんさんタイム」を週1回以上継続して行う。		
取組内容③【区分：授業力の向上】 ○さまざまな部会を通して研究を深め、分かりやすい授業の創造を目指す。		A
指標 公開授業・討議会・実技研修会等を計画的に行う。		
分析及び今後の取り組みに向けた改善点 「読むこと」に重点を置き、言語活動の充実を図り、読書活動を活性化するための取り組みを重ねてきた。また、習熟度別少人数学習の有効活用や「さんさんタイム」の実施などにより、基礎的・基本的な学力の定着にも一定の効果をあげることができた。さらに、授業研究や講師を招いての研修の充実により、分かりやすい授業の創造に努めた。これらの取り組みの結果、年度目標を達成できた。 今後の取り組みに向けた改善点としては、次の4点が挙げられる。 ・習熟度別少人数学習が有意に活用できるよう、さらに、担当を中心に計画や準備のための時間をとり、意思の疎通を図るようにしていく。 ・シンキングツールやデジタル教材の活用を継続して行っていく。 ・引き続き、有効な入り込み支援に向け、連携を図る。 ・学級文庫の入れ替えや修繕などを検討していく。		

大阪市立豊里小学校 平成28年度 運営に関する計画・最終総括(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標Ⅱ	達成状況
【視点：道徳心・社会性の向上】 ○平成28年度末の学校アンケートにおける「しっかりとあいさつや返事をしている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合80%以上を維持する。 （カリキュラム改革関連） ○平成28年度末の学校アンケートにおける「学校のきまりを守っている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合80%以上を維持する。 （カリキュラム改革関連） ○平成28年度末の学校アンケートにおける「しっかりと清掃活動をしている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。 （カリキュラム改革関連） ○平成28年度末の学校アンケートにおける「自分にはよいところがある」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分：道徳心・社会性の育成】 ○「あいさつ週間」を実施し、あいさつへの意識を高めるようにする。 指標 月に1回以上、一週間あたり20人程度参加し、あいさつ運動を実施する。	B
取組内容②【区分：豊かな心を育む教育の推進】 ○《豊里っ子宣言》の意識をよりいっそう高め、みんなで学校をよりよくしようとする。 指標 児童朝会や学級指導の場で豊里っ子宣言についての話をし、しっかりと意識づけを継続して行う。また豊里っ子宣言ふりかえり週間として、ふりかえりカードで年2回（1学期・2学期）ふり返りの機会を作る。	B
取組内容③【区分：豊かな心を育む教育の推進】 ○美化委員会を中心に日々の清掃活動の徹底を呼びかけ、実践していく。 指標 校内美化重点目標を月1回発表し、重点的に清掃するところを伝え、清掃活動の活性化を図る。	B
取組内容④【区分：豊かな心を育む教育の推進】 ○学級における教師と児童及び児童相互の人間関係を深めるとともに、教師間でも学年内や学年間で児童個々の長所を積極的に交流することを通して、児童の自尊感情や自己肯定感を高める機会を増やす。	B
取組内容⑤【区分：豊かな心を育む教育の推進】 ○学校経営の重点「豊かな人間性とたくましく生きる力を育てる教育実践を推進する」を受け、鑑賞行事等の情操教育の充実・地域ふれあい活動・清掃活動等、さまざまな体験的学習を重視することで、心豊かに生きる児童の育成を図る。 指標 自律心や感受性豊かな心、自他の尊厳を大切に思いやりの心の育成を目指し、音楽の鑑賞行事、地域ふれあい活動・清掃活動、グループによる校外体験学習等を充実させる。	B
分析及び今後の取り組みに向けた改善点 <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動を通してあいさつへの意識は高まった。児童がより主体的に活動できるような方策を考え実践していく必要がある。 ・教室掲示や朝会・集会時のふりかえり等で豊里っ子宣言が定着した。ふりかえりカードを用いて児童へ効果的なフィードバックを行っていく。 ・学級へのポスター掲示などにより、意識して校内美化に取り組むことができた。校内美化に関する年間目標の設定も必要である。 ・職員間で児童個々の長所やがんばりを共有することにより、児童の自尊感情や自己肯定感を高める土台ができた。児童相互の人間関係深化のための指導・支援のあり方を考えていく。 ・各学年が計画に沿って鑑賞行事や地域と交流をする活動を実施し、充実させることができた。自律心や感受性豊かな心、自他の尊厳を大切に思いやりの心の育成を継続していく。 	

大阪市立豊里小学校 平成28年度 運営に関する計画・最終総括(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した

B: 目標どおりに達成した

C: 取り組んだが目標を達成できなかった

D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標Ⅲ	達成状況
【視点：健康・体力の保持増進】 ○平成28年度末の学校アンケートにおける「体育の時間や休み時間にしっかり身体を動かしている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合80%以上を維持する。 (カリキュラム改革関連) ○平成28年度末の学校アンケートにおける「給食を残さずに食べている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合80%以上を維持する。 (カリキュラム改革関連) ○平成28年度末の学校アンケートにおける「手洗いをしっかりしている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)	A

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【区分：体力向上への支援】 ○なわとびギネス、耐寒駆け足に加え、運動強化月間を通して、体力づくりへの関心を高める。		B
指標 年3回行う運動強化月間を中心になわとびギネス・耐寒駆け足も計画的に実践する。		
取組内容②【区分：健康・生活習慣の確立】 ○給食週間や栄養指導等を通じて食への関心を高める。 ○手洗い重点週間を設けるなど手洗い指導を実践し、健康への関心を高める。		B
指標 ○各クラスの年1回以上の栄養指導や、給食委員会で給食を残さず食べることをよびかける取り組みをするなど、活動を工夫する。 ○清潔検査を毎週実施し、手洗い重点週間と手洗いチェックを実施する。		
分析及び今後の取り組みに向けた改善点 ・なわとびギネス、耐寒駆け足を計画的に行うことができた。 ・運動強化月間の実施内容を、より具体化して共通理解する必要がある。 ・栄養指導等の取り組みを通して、給食を残さず食べることができる児童が増えた。 ・清潔検査や給食委員の呼びかけ等の活動を通して、ハンカチ・ティッシュ・マスクを使用することへの意識は高まった。 ・手洗いに関しては継続した声かけにより、一層の習慣化を図る必要がある。		